

「教祖祭」 成井理事長挨拶

「教祖祭」、おめでとうございます。

瑞雲郷は、梅のお花の春立つ香りに包まれています。

只今は、教主様の篤いお祈りに包まれる中、仲泊管長をはじめ、①之光教団といづのめ教区の執行部の皆さま、そして、職員、信徒の皆さまと共に、「教祖祭」を執り行わせていただきましたこと、主神と、主神とご一体であられる明主様に心より感謝申し上げたいと存じます。

先般、2月4日には、白澤代表を中心とするいづのめ教区の皆さまは、教主様のご出座を仰ぎ、厳粛且つ盛大に「立春祭」を執り行われたと伺っております。

①之光教団におきましても、教主様の愛情溢れるお祈りのもと、「立春祭」をお許しいただきました。

このように、メシアの御名にある、意義ある「立春」を心からお祝いさせていただけましたこと、教主様に厚く感謝申し上げたいと思います。

さて、私は、本日の「教祖祭」において、明主様に対しましてお詫び申し上げ、感謝をもって悔い改めさせていただきますと、ご奉告させていただいたことがございます。

私は、毎年2月10日という日について、明主様の御命日と思ってまいりました。

しかしながら、教主様は、昨年「韓国本部三十周年記念信徒大会」などの折、次のようにご教導くださいました。

明主様は、この地上にお生まれになり、私どもが地上での名前を持たされたように、岡田茂吉というお名前をお持ちになりました。そして、そのご生涯は、様々な困難と苦勞の連続でありました。

しかしながら、それだけではなく、明主様は、ご自身の中に主神が生きておられる、と感じ取られ、その確信を持つに至られ、それを私どもに、また、多くの人々に分け与えようとされる主神の御用のために、全身全霊を捧げられました。

そして、今から約64年前、ご昇天の前の年の昭和29年、脳溢血という重い病のさなかにあつて、明主様は、ご自身が「生まれ変わる」のではな

く、「新しく生まれる」と仰せになると同時に、「メシヤが生まれた」と仰せになりました。

このことは、明主様が主神に仕える子供、すなわち、主神のみ業を受け継ぎ、表現する者となられたことを示すものであると思います。

教主様は、このようにお示しくださり、そして続けて、

明主様は、主神の子供として新しくお生まれになりました。

新しくお生まれになり、地上でのご神業を全うされた明主様は今、主神のみもとにあって、主神が現れるための御用にお仕えになっていらっしゃいます。

そして、主神は、ご自身を現されるために、明主様を先頭にして、私どもをお使いになっておられます。

このように、主神は、私ども一人ひとりを必要としておられるのです。

ここに、明主様に結ばれた私ども一人ひとりに与えられた使命と役割があると思います。

ですから、私どもは、明主様におすが継りして生きていくだけではなく、明主様を模範とし、明主様に倣って、生まれ変わるのではなく、新しく生まれなければなりません。

なぜならば、明主様は、私どものために、私どもの先駆けとして、新しくお生まれになったからです。

教主様は、このようにご明示くださいました。

私は、「霊界から働く」と仰せになった明主様を信じると言いながら、畏れ多くも明主様のご昇天を“死”というイメージで受け止めていた、自らの大きな誤りに気づかせていただきました。

私は、教主様のご教導を通して、2月10日という日について、明主様が新しくお生まれになり、地上でのご神業を全うされたのち、ご昇天になった日として、つまり、メシアの御名にある「教祖祭」の日として、新しく受け止め直させていただくことを、本日感謝をもって深く心に刻ませていただきました。

私どもは、明主様から、メシアの御名が刻まれた主神の永遠の命をお受けしていることをお知らせいただいたものとして、全人類の先駆けとなられた明主様を模範とし、人類最大の福音である「新しく生まれる」という道を、ひたむきに歩ませていただきたいと存じます。

また、昨年この時期に思いを馳せますと、⑩之光教団は、包括責任役員会を詐称する人たちから、包括・被包括関係を解除するという通告を受け、彼らから一方的に「離脱教団」のレッテルを貼られました。

そして、5月には、すべてを失ってでも、教主様と一つ心で明主様の真実を求めて歩む決断をされた、白澤代表をはじめとするいづのめ教区の皆さまとの力強い連携・協働の道が開かれました。

本日、教主様より賜りました明主様のみ教え、「私の歩んだ信仰生活」の中で、明主様は、最後の所で、

私は、事件を弁護士に頼んでおき、救いを……信仰を求めて、まっしぐらに……ひたむきに

と仰せになり、そして続けて、

心の底の底には燃えあがっては噴きあげる信仰への強いゆるがない信念がありました。(中略)常に神に守られているという強い信念は私をびくとも脅やかしませんでした。(中略)今は……今は……神韻微妙、俗塵の舞い寄り得ない清浄無碍の心境に丸い……まるい幸福の軟光をいだいて心と肉身の息づきをするようになりました。

顧みて、私の半生は全く多難と悲痛そのものでした。がこれ有った許りに現在の幸福も又有得たのだと思うているような次第であります。

明主様は、「私の歩んだ信仰生活」を、このように結んでおられます。

私は、何があっても主神を信頼し、主神に心からお仕えになった明主様が、私ども一人ひとりの中で生き生きと生きておられることを心から信じます。

そして、どのようなことがあっても、すべてを、真に尊い「メシアの御名」を思い出させていただくための希望に満ち満ちた「メシアの養い」と受け止めたいと思います。

私どもは、どんな時も、教主様と一つ心で、明主様の真実を求めて、主神の未来を創造する全く新しい救いの御業に、明主様と共にあるメシアの御名にあって、一途にお仕えしてまいりましょう。

ありがとうございました。